

## ⑥刊行物に関する事業一覧

プロジェクト及び刊行物の名称	担当部門	頁
『東京文化財研究所年報』（*企08）	企画情報部	83
『東京文化財研究所概要』（*企08）	企画情報部	83
『東文研ニュース』（*企08）	企画情報部	83
平成24年版『日本美術年鑑』 刊行事業・出版事業『美術研究』（調査・研究成果の公開）（企09）	企画情報部	83
無形文化遺産部出版関係事業（無04）	無形文化遺産部	83
『保存科学』53号の出版（保修09）	保存修復科学センター	84
第36回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書（保修11）	保存修復科学センター	84
『ごいし民俗誌』（*無07）	無形文化遺産部	84
『東日本大震災被災地域における無形文化遺産とその復興』（*無07）	無形文化遺産部	84
『伊藤若冲 菜蟲譜 光学調査報告書』（*保修01）	保存修復科学センター	84
『平等院鳳凰堂西面扉絵 日想観 光学調査報告書』（*保修01）	保存修復科学センター	85
『文化財における伝統技術及び材料に関する研究報告書 2013年度』（*保修06）	保存修復科学センター	85
『御料車の保存と修復及び活用』（*保修07）	保存修復科学センター	85
Oil Paint Used in Modern Japanese Architecture（*保修07）	保存修復科学センター	85
『各国の文化財保護法令シリーズ [18] インドネシア』（*セ01）	文化遺産国際協力センター	86
『国際資料室蔵書目録』（*セ01）	文化遺産国際協力センター	86
『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成25年度成果報告書』（*セ02）	文化遺産国際協力センター	86
Study on the Biodeterioration of Stone Monuments in Angkor – Results of the Joint Research Project at Ta Nei Temple -（*セ02）	文化遺産国際協力センター	86
『バーミヤーン遺跡資料集3 バーミヤーン仏教石窟壁画の保存修復 アフガニスタン文化遺産調査資料集別冊第6巻』（*セ03）	文化遺産国際協力センター	87
Structure, Design and Technique of the Bamiyan Buddhist Caves, Recent Cultural Heritage Issues in Afghanistan 5（*セ03）	文化遺産国際協力センター	87
『バーミヤーン遺跡資料集4 バーミヤーン仏教石窟の建築調査 アフガニスタン文化遺産調査資料集別冊第7巻』（*セ03）	文化遺産国際協力センター	87
『アルメニア歴史博物館所蔵考古金属資料の保存修復と自然科学的調査 2011・2012年度（第1次～第4次ミッション）』（*セ03）	文化遺産国際協力センター	87
インドー日本文化遺産保護共同事業報告書 第4巻『アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究—第2窟、第9窟壁画の保存修復と自然科学調査（2009～2011）—』（*セ03）	文化遺産国際協力センター	88

インドー日本文化遺産保護共同事業報告書（資料編）『アジャンター第2窟壁画の彩色材料分析』（*セ03）	文化遺産国際協力センター	88
『コーカサスに渡った日本美術作品ーアルメニア国立美術館所蔵「名区小景」調査報告書』（*セ04）	文化遺産国際協力センター	88
『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2013』（*セ06）	文化遺産国際協力センター	88

- \*注
- ・『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』は、広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08）の一環として実施した。
  - ・『ごいし民俗誌』は、被災地における無形民俗文化財のアーカイブ事業（①無07）の一環として実施した。
  - ・『東日本大震災被災地域における無形文化遺産とその復興』は、被災地における無形民俗文化財のアーカイブ事業（①無07）の一環として実施した。
  - ・『伊藤若冲 菜蟲譜 光学調査報告書』は、文化財の材質及び劣化調査法に関する研究（①保修01）の一環として実施した。
  - ・『平等院鳳凰堂西面扉絵 日想観 光学調査報告書』は、文化財の材質及び劣化調査法に関する研究（①保修01）の一環として実施した。
  - ・『文化財における伝統技術及び材料に関する研究報告書 2013年度』は、文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究（①保修06）の一環として実施した。
  - ・『御料車の保存と修復及び活用』は、近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（①保修07）の一環として実施した。
  - ・Oil Paint Used in Modern Japanese Architecture は、近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（①保修07）の一環として実施した。
  - ・『各国の文化財保護法令シリーズ [18] インドネシア』は、文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（②セ01）の一環として実施した。
  - ・『国際資料室蔵書目録』は、文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（②セ01）の一環として実施した。
  - ・Study on the Biodeterioration of Stone Monuments in Angkor- Results of the Joint Research Project at Ta Nei Temple - は、東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力（②セ02）の一環として実施した。
  - ・『バーミヤーン遺跡資料集3 バーミヤーン仏教石窟壁画の保存修復 アフガニスタン文化遺産調査資料集別冊第6巻』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ03）の一環として実施した。
  - ・Structure, Design and Technique of the Bamiyan Buddhist Caves, Recent Cultural Heritage Issues in Afghanistan 5 は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ03）の一環として実施した。
  - ・『アルメニア歴史博物館所蔵考古金属資料の保存修復と自然科学的調査2011・2012年度（第1次～第4次ミッション）』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ03）の一環として実施した。
  - ・『アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究 - 第2窟、第9窟壁画の保存修復と自然科学調査（2009～2011）-』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ03）の一環として実施した。
  - ・『アジャンター第2窟壁画の彩色材料分析』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ03）の一環として実施した。
  - ・『コーカサスに渡った日本美術作品ーアルメニア国立美術館所蔵「名区小景」調査報告書』は、在外日本古美術品保存修復協力事業（②セ04）および助成事業の一環として実施した。
  - ・『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2013』は、ユーラシア壁画の調査研究と保存修復（②セ06）の一環として実施した。

## 広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（\*③企08）

『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』の刊行は、広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08）の一環として実施した。詳細は、61頁を参照。

## 平成24年版『日本美術年鑑』 刊行事業・出版事業 『美術研究』（調査・研究成果の公開）（⑥企09-13-3/5）

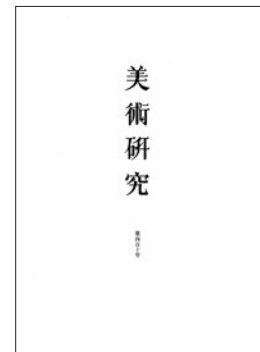
### 『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、我が国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。企画情報部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936（昭和11）年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。平成24年版は、B5 445ページとなった。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。



### 『美術研究』

1932（昭和7）年1月、当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、80年以上にわたり、日本・東アジアの古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文・図版解説・研究ノート・書評・展覧会評・研究資料を掲載している。年3冊刊行。本年度は410号、411号、412号を刊行した。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。



### 研究組織

○津田徹英、塩谷純、田中淳、山梨絵美子、二神葉子、綿田稔、小林公治、小林達朗、皿井舞、（以上、企画情報部）、江村知子（文化遺産国際協力センター）、中野照男、三上豊、近松鴻二、吉田千鶴子（以上、客員研究員）

## 無形文化遺産部出版関係事業（⑥無04-12-3/5）

### 『無形文化遺産研究報告』

無形文化財や無形民俗文化財に関する研究論文、調査報告、資料などを掲載している。



### 『無形民俗文化財研究協議会報告書』

無形文化遺産部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催している。第8回にあたる本年度は「わざを伝える—伝統とその活用—」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。



## 『保存科学』53号の出版 (⑥保修09-13-3/5)

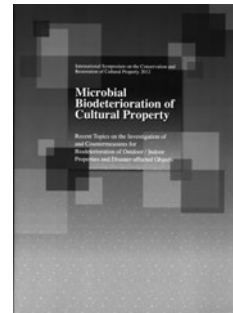
国立文化財機構所属研究員等による文化財の保存と修復に関する科学的論文や報告を掲載している。53号には報文4本、報告15本を掲載した。



## 第36回文化財の保存と修復に関する国際研究集会報告書 (①保修11-13-1/1)

Microbial Biodeterioration of Cultural Property: Recent Topics on the Investigation of and Countermeasures for Biodeterioration of Outdoor / Indoor Properties and Disaster-affected Cultural Objects

本書は、平成24年12月5日から7日までの3日間にわたり開催された第36回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「文化財の微生物劣化とその対策―屋外・屋内環境、及び被災文化財の微生物劣化とその調査・対策に関する最近のトピッカー」の成果論文集である。口頭発表15件の内容をまとめた論文と、ポスター発表23件の要旨を収録。2014年1月刊行。本編166ページ、ポスター発表要旨編23ページ。



## 『ごいし民俗誌』 (①無07-13の一環として実施)

被災地における無形民俗文化財のアーカイブ事業の一環として行った岩手県大船渡市末崎町基石地区における民俗調査の結果をまとめ、報告書として刊行した。



## 『東日本大震災被災地域における無形文化遺産とその復興』 (①無07-13の一環として実施)

被災地における無形民俗文化財のアーカイブ事業の一環として行っている「無形文化遺産情報ネットワーク」の活動を通して収集した、震災後の無形文化遺産をめぐる現状と課題についてまとめ、報告書として刊行した。



## 『伊藤若冲 菜蟲譜 光学調査報告書』 (①保修01の一環として実施)

佐野市立吉澤記念美術館が所蔵する伊藤若冲 菜蟲譜に関する光学調査報告書である。菜蟲譜は、伊藤若冲が手掛けた数少ない画卷形式の絵画の一つであり、東京文化財研究所では、平成22～23年度に非破壊・非接触の光学調査を実施した。本書では巻頭から巻末に至る高精細カラー画像を掲載するとともに、蛍光X線分析によって行われた彩色材料調査の結果について収録した。2014年3月刊行。104ページ。



『平等院鳳凰堂西面扉絵 日想観 光学調査報告書』(①保修01の一環として実施)

平等院鳳凰堂は平安時代中期に建造され、本尊阿弥陀如来坐像が安置されている中堂を中心として、左右に伸びる翼廊と、後方に伸びる尾廊によって構成されている。東京文化財研究所では、鳳凰堂西面扉に描かれている図像や使われている彩色材料を解明することを目的に、平成17～24年度に複数回の光学調査を実施した。本書では、西面扉の高精細カラー・近赤外・蛍光画像を掲載するとともに、蛍光X線分析によって行われた彩色材料調査の結果を収録した。2014年3月刊行。98ページ。



『文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究報告 2013年度』(①保修06の一環として実施)

劣化が著しい文化財建造物の塗装彩色材料や漆塗装を有する考古資料などの各種文化財における伝統技術及び材料の調査を行い、実際の修理施工に役立てることを目的としたプロジェクト「文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究」の本年度の活動報告書である。本年度の報告書では、①表装裂試料データのデジタル化、②標品顔料の分析データ資料化、③一宮市博物館保管仁王胴具足の調査報告、④鎌倉市大倉幕府周辺出土漆塗籠手の保存修復調査報告、⑤桃山文化期における輸入漆の調達と使用に関する調査、⑥厳島神社反橋の旧塗装材料に関する調査報告などの調査研究報告、さらに本年度開催した研究会の報告として各発表の要旨を掲載した。



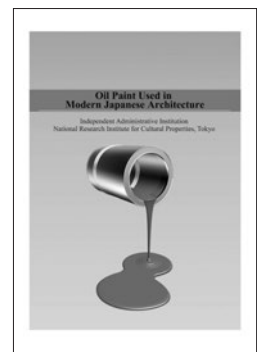
『御料車の保存と修復及び活用』(①保修07の一環として実施)

本書は、2012(平成24)年11月に東京文化財研究所で開催した御料車の保存と修復及び活用に関して、鉄道博物館の学芸部の方々、博物館明治村の主任学芸員の方や御料車の修復作業に携わり現在は当所の客員研究員をしているの方々、鉄道関連の専門家でもある客員研究員の方、また、台湾において近代文化遺産の研究をされており、その一環として台湾に残されている御料車の研究をされた方をお招きし、当所のセミナー室においてご講演頂いた内容をまとめたものである。平成25年度発行。



Oil Paint Used in Modern Japanese Architecture (①保修07の一環として実施)

本書は、2013(平成24)年3月に発行した、「近代建築に使用されている油性塗料」の英訳版である。文化庁文化財部参事官室(建造物担当)調査官の小沼氏より、指定品となっている建築物に関する油性塗料の使用事例の紹介、及び、失われつつある材料の確保についての文化庁の取り組みが紹介され、続いて、博物館明治村の柳澤氏より博物館明治村における建築物の修復事例に関する詳細な報告がなされ、大澤塗装株式会社の大澤氏からは、油性塗料を含めた日本における塗料史に関するご講演が有り、最後に、ドイツのドイツ技術博物館のフォ



⑥刊行物 Area17

ルカ・キースリング氏から、ヨーロッパにおける油性塗料の歴史、及び氏の専門である油性塗料に含まれる油に関するご講演で締めくくった内容をまとめた物である。平成25年度デジタルブックとして発行。

『各国の文化財保護法令シリーズ [18] インドネシア』（②セ01の一環として実施）

本冊子は文化遺産に関するインドネシア共和国法、および文化遺産に関するインドネシア共和国法2010年第11号の説明を、原文のインドネシア語から和訳したものである。巻末には原文も併せて掲載している。（2014年3月刊行、147ページ）



『国際資料室蔵書目録 Library Catalogue of the International Cooperation Center Archives』（②セ01の一環として実施）

本冊子は、2013（平成25）年度に国際資料室で受け入れてデータベース化した1253点（和漢書330点、洋書923点）の資料及び国際資料室で所蔵する雑誌305種類を掲載した目録である。（2014年3月刊行、191ページ）



『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成25年度成果報告書』（②セ02の一環として実施）

平成25年度に東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力として実施した、カンボジア及びタイにおける文化遺産保存修復協力の内容、並びにミャンマーとの協力に関する事業成果をまとめたものである。（2014年3月刊行、110ページ）



Study on the Biodeterioration of Stone Monuments in Angkor – Results of the Joint Research Project at Ta Nei Temple - (②セ02の一環として実施)

本報告書は、カンボジア王国アンコール地域保存管理機構（APSARA）との協力合意書に基づいて平成13年度から平成24年度にかけて実施した、アンコール地域の石造遺跡の微生物劣化に関する共同研究について、平成25年1月にシエムレアプで開催した研究会の内容を含めて英語版でまとめたものである。（2014年3月刊行、188ページ）



『アルメニア歴史博物館所蔵 考古金属資料の保存修復と自然科学的調査 2011・2012年度（第1次～第4次ミッション）』日本－アルメニア文化遺産保護協力事業報告第1巻（②セ03の一環として実施）

2011年から2012年にかけてアルメニア歴史博物館所蔵の考古金属資料を対象に行った保存修復事業の報告書である。本書は、実施した保存修復作業内容およびそれにともなう自然科学的調査の成果を取めている。（2013年5月刊行）



⑥刊行物 Area17

インドー日本文化遺産保護共同事業報告 第4巻『アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究—第2窟、第9窟壁画の保存修復と自然科学調査（2009～2011年）—』（セ03の一環として実施）

アジャンターにおける事業の調査および研究成果を公開する『インドー日本文化遺産保護共同事業報告』の第4巻となる本書は、アジャンター遺跡における一連のドキュメンテーションと分析の結果に基づいてインド考古局と共同で実施した試験的なクリーニングの成果、そして壁画の技法材料および劣化に関する詳細な科学分析の成果を収めている。（2014年3月刊行）



インドー日本文化遺産保護共同事業報告 第4巻（資料編）『アジャンター第2窟壁画の彩色材料分析』（セ03の一環として実施）

本書は本文編として刊行するインドー日本文化遺産保護共同事業報告第4巻『アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究—第2窟、第9窟壁画の保存修復と自然科学的調査（2009-2011年）—』の資料編である。本書には、東京文化財研究所とインド考古局が共同で実施した「アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業」（2008～2011年）の枠組みにおけるアジャンター壁画彩色の材料分析に関する結果を収録している。（2014年3月刊行）



『コーカサスに渡った日本美術作品—アルメニア国立美術館所蔵「名区小景」調査報告書』（Japanese Art works across the Caucasus – The research report of Meikushoukei, a collection of the National Gallery of Armenia）（セ04および助成事業の一環として実施）

アルメニア国立美術館に所蔵される浮世絵風景版画である「名区小景」の調査報告書。本作品は弘化4年（1847）に刊行された『名区小景』の版を改め、挿図の部分を切り取ったものと考えられ、29枚が所蔵されている。各縦8.1×11.8cmの版画を原寸大で掲載し、比較参照のために元になった版本の図を添えた。論文2篇を収録。江村知子「コーカサス地方の日本美術作品について」、津田卓子（名古屋博物館）「アルメニア国立美術館にのこる『名区小景』について」（2014年3月刊行、64ページ）



『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2013』（セ06の一環として実施）

本書は、2013年度に敦煌莫高窟第285窟で実施した現地調査の成果を収めている。（2014年3月刊行）

